

論文審査の要旨

報告番号	甲・ (乙) 第 3053 号	氏名	奥山 裕美
論文審査担当者	主査 川添 和義 副査 巖本 三壽 副査 向後 麻里		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>論文タイトル</p> <p>QOL Evaluation of Nab-Paclitaxel and Docetaxel for Early Breast Cancer</p> <p>(早期乳がんに対するナブパクリタキセルとドセタキセルの有害事象の比較と QOL 評価に関する検討)</p> <p>本論文は、乳がん治療の薬物療法において、ナブパクリタキセル (nab-PTX) とドセタキセル (DTX) の投与が副作用発現を含め、患者の QOL にどのように影響を与えるかということ、無作為化第Ⅱ相試験において検討したものである。</p> <p>研究対象は昭和大学病院にて nab-PTX または DTX で乳がん治療を施している、組織学的に HER2 陰性、Stage T1c-3/N0/M0 もしくは T1-3/N1/M0 で、術前化学療法および手術施行により根治切除が期待できる患者とした。患者を nab-PTX および DTX 治療群に分けて、主要評価項目を Grade 3 または Grade 4 の有害事象の発生割合とし、副次的評価項目をすべての有害事象及び QOL とした。</p> <p>検討の結果、有害事象としては nab-PTX および DTX 治療群の間に特に有意な差は見られなかった。一方、健康に関連した生活の質：Health-Related Quality of Life (HRQOL) に関しては、いずれの群においても経時的に低下する傾向にあり、今後はタキサン系抗がん剤の更なる副作用マネジメントの介入が必要であることが示唆された。</p> <p>以上の内容は薬学的観点から重要な事項を含み、今後の臨床薬学研究にも大きく資するものである。また、学位論文に関する質疑にも的確に回答することができており、博士 (薬学) として相応しいと判定した。</p>			

(主査が記載、500 字以内)